

大阪・関西万博で南高梅を漬込み

25年後に開封イベントも予定

紀州梅の会
大阪・関西万博のシグネチャーパビリオン「EARTH MART（アースマート）」において、行政、JAMART（アースマート）において、行政、JAMARTによる紀州南高梅の「万博漬け」プロジェクトが行われます。6月に収穫した南高梅約1トンを会場内で漬け込む予定にされており、パビリオンの来場者には未来に託す「食のタイムカプセル」として25年後に実食できる引換券を同時配布します。



場内で展示予定の「万博漬け」イメージ



アースマートの小山プロデューサー（左から2人目）と「紀州梅の会」関係者

シグネチャーパビリオンとは、リアルとバーチャルによる多様な体験により、訪れる人々が「いのち」について考え、その概念をアップデートしてもらうことを目的に、各界のトップランナー8人が独自のテーマでパビリオンを展開するものです。

アースマートのプロデューサーを務める放送作家・脚本家の小山薫堂さんは「今回の万博で何か記憶に残る土産になれば」と、自然の恵みと人の知恵だけで長期保存できる日本古来の保存食・梅干しに注目したとのこと。「これから時を超えて梅干しを媒介にし、人が人々を思う、やさしさの装置みたいなものになればうれしい」と話しています。

万博終了後、紀州梅の会が漬け込んだ梅を持ち帰って梅干しを作り、25年後の2050年、田辺市内で開封や引き換えイベントを開催する予定です。

パビリオン場内ではこのほか、未来への思いを込められる絵馬コーナーも設置し、熊野本宮大社で祈禱後、2050年まで保管することになっています。

紀州梅の会の真砂充敏会長は「当地の梅を広くPRできる絶好の機会。梅が大きな話題を生むと確信している」と期待を寄せています。

部長に檜山京平さんを選任

紀南の青年部が総会開く

JAWAKAYA青年部紀南地域本部は4月11日、中央営農経済センターで総会を開きました。本人87人、委任状41人の128人が出席し、役員選任では檜山京平さん（新庄支部）が令和7年度紀南地域本部の部長に選任されました。

青年部は概ね40歳以下の若手後継者による組織で、紀南地域本部には11支部があり、部員数は145人となっています。

総会の議案審議では、JAWAKAYA青年部紀南地域



会 計 寄本裕貴さん 副部長 田中信太郎さん 部 長 檜山京平さん

本部規約の制定や7年度活動方針、役員選任など全4議案を上程し、原案通り承認されました。

議案審議の後、支部代表による「青年の主張」を行い、最優秀賞に松下達郎さん（芳養支部）、優秀賞に射場康介さん（上富田支部）を選びました。松下さんは8月に開催予定の和歌山県青年大会に出場する予定です。

紀南地域本部の役員と支部長などの役員体制は次の通り。（敬称略、カッコ内は所属支部）

- 【本部役員】 部長 檜山京平（新庄） ▽ 副部長 田中信太郎（上秋津） ▽ 会計 寄本裕貴（稲成）
 - 【支部長】 芳養 岸本拓朗、稲成 山下真、中芳養 蔵本光彦、上芳養 山崎享、上秋津 谷口雄祐、秋津川 坂本和也、三栖 梅田純也、長野 那須弘規、新庄 檜山和昭、上富田 森有輝、日置 二株輝王
- 【原本部監事】 行森照明（上芳養）

今月の
きなん産地人

生産者
紹介



「パープルキング」にも挑戦!

よりもとひろき
田辺市稲成町 寄本 裕貴さん

田辺市稲成町の寄本裕貴さんは、1.5畝の園地で南高梅を中心に栽培しています。青梅出荷がほとんどで、昨年大量発生したカメムシ被害や2年連続のひょう被害など思うようにいかないことも多いとのことですが、昨年からは「パープルキング」にも挑戦しており、「収穫はまだまだ先ですが、成長が楽しみ」と話しています。

梅のほか、極早生ミカンと早生ミカンも1.5畝栽培しており、高水準の糖度が求められる環境にも「努力が直接成果に表れるため、やりがいがあります」と前向きです。

梅・ミカンともに改植による園地の若返りを進めつつ、趣味のゴルフで息抜きしながら、秀品率の向上に向けて日々作業に励んでいます。

今回の被害を受け、JAでも被害果を含む荷受け対策などについて協議を重ねています。営農部の原大輔部長は「2年続きの降ひょう被害で生産者から不安の声も多い。JAとして関係機関と連携しながら対策を講じたい」と話しています。

JAわかやま女性会紀南地域本部は4月28日、中央営農経済センターで総会を開きました。女性会はJAを抛りどころに地域や学校と連携し、食と農のつながりを大切にしながら女性組織の活性化に取り組んでいます。紀南地域本部は田辺、白浜、上富田、なかへち、日置川、すさみ、串本の7ブロックで構成されています。

紀南の女性会が総会開く

会長に瀧本かおりさんを選任



副会長
渡瀬道恵さん



副会長
湯川明美さん



会長
瀧本かおりさん

令和6年度の活動・収支決算の報告の後、令和7年度の活動計画など全3議案が審議され、役員選任では瀧本かおりさん(田辺ブロック)が令和7年度紀南地域本部の会長に選任されました。各ブロック長からなる本部役員体制は次の通り。(敬称略、カッコ内は所属ブロック)

【本部役員】 会長 瀧本かおり(田辺) 副会長 湯川明美(白浜)、渡瀬道恵(すさみ) 副ブロック長 中井雅子(上富田)、大森知子(なかへち)、浦本信子(日置川)、宇井良子(串本)

4月に降った雹(ひょう)の影響で、梅産地に甚大な被害が発生しました。4月6日、11日、14日と相次いでひょうが降り、管内の生産者からは悲痛の声があがっています。管内の被害額については4月16日時点で約22.8億円

4月の降ひょう被害うけ
梅の果実に傷、産地に打撃



ひょうが当たり傷が入った梅の果実

との発表がありました。広範囲で果実の裂傷や陥没、打ち傷等が見られます。JA営農担当者も被害調査を行い、被害が大きい地域では、県、市町の担当者や生産者らとともに被害を確認しました。数回の降ひょうにより、紀南地域本部管内ほぼ全域で被害が確認されており、生産者からは「園地によっては壊滅状態。昨年に続くひょう被害というところで、精神的にも大きなダメージを受けている」「出荷や販売面で何らかの支援をしてほしい」との声が相次いでJAに寄せられています。



ミカン

◆摘果

着果過多樹や極早生ミカンでは、肥大促進や階級のバラツキを少なくするため、遅れないように摘果を進めよう。

○樹冠上部全摘果

着果過多樹では、隔年結果是正対策として樹冠上部の約40%（総着果量の約50%）を全摘果し、夏芽を出させる。摘果時期が遅れると、思うように新梢が出ないので7月上旬までに取り組もう。また、夏芽発生後はミカンハモグリガの防除を忘れず行おう。

○摘果剤の散布

摘果作業の省力化を図る場合は摘果剤を活用する。いずれの薬剤も、

樹勢の弱い樹や、高温が続くような場合は使用をさける。

ファイガロン乳剤は間引き摘果目的に散布後、2回目（満開70〜80日後、但し収穫14日前まで）の散布を行うことにより熟期促進の効果が期待でき、ターム水溶剤は樹勢を低下させない特徴がある。

◆病害虫防除

○黒点病

枯枝が伝染源となるため、枯枝の除去は必ず行う。

防除は前回の散布から積算降水量が200mmを目安に薬剤を散布する。但し、降水量が少ない場合でも20〜30日間隔で防除を行う。

梅雨時期の防除時には、アピオン・E1000倍の加用が効果的であるが、マシン油乳剤使用時には混用しない。

○チャノキイロアザミウマ

チャノキイロアザミウマは、5月に引き続き10月頃まで長期にわたり発生するため、防除を継続する。

○ミカンサビダニ

ミカンサビダニは6月下旬頃から、葉から果実に移動するため、その前の6月中下旬頃に防除を行う。

○ゴマダラカミキリ

成虫の発生は6月頃から見られ、その後枝や幹に産卵し幼虫が食入することにより、樹勢低下や枯死に至るため防除を行う。

るため防除を行う。

○ミカンハダニ

6月頃から増加傾向となるため、発生初期にアタックオイル（200倍・4月〜10月）を散布する。但し、デランフロアブルとの散布間隔は30日、ICボルドーとの散布間隔は14日空ける。

◆中晩柑類の夏肥

果実が樹上にある期間が長い中晩柑類では、樹勢維持と果実肥大促進のため、適切な樹勢管理が重要となる。（上秋津支店営農経済駐在・小谷周平）

梅

◆収穫

小梅、古城に続いて主力品種の「南高」の収穫が始まる。梅農家では、年間で最も忙しい時期になるので事故や健康管理に十分注意しよう。

梅は品種、地域、園地条件、樹勢、出荷用途によって収穫時期は異なるため適期収穫に努めよう。

「南高」の青果収穫は、果実の「毛じ」が半分程度抜け落ち、光沢が果実の3分の1程度出ることが収穫時期となる。同じ樹でも結実場所によって熟度の進行が異なるので、上部や陽光面から順に数回に分けて収穫する。

加工用または漬け梅用は、樹上完熟させ、収穫用ネットの上に自然落果した梅を拾って収穫する。梅雨時期の収穫は高温多湿時期となるため、果実が傷みややすくなるので丁寧に取り扱う。

◆病害虫防除

○すす斑病

天候不良が続く、園内の湿度が高く通気性が悪くなると、すす斑病の発生が心配される。防除は、収穫日に注意しながら薬剤を選択しよう。

◆ケシキスイ対策

漬け梅用として完熟落果した果実を長期間放置しておくケシキスイに食入される恐れがある。ケシキスイに食入された果実は決して流通させてはならない。対策として次の6点に取り組もう。

- ① 薬剤防除で虫の密度を減らす。
- ② 必ずネットを敷く。
- ③ 1日1回以上、こまめに収穫する。
- ④ 古い果実や傷んだ果実、過熟果は園外に持ち出して処分する。
- ⑤ 清潔な水で水浸処理を30〜45分程度行う。
- ⑥ 選別時に疑わしき果実を排除する。

◆お礼肥

樹勢回復、ならびに次年度の花芽分化、貯蔵養分の蓄積を目的として

収穫が終了した園から速やかに施用しよう。施肥量は、結実量や樹齢、樹体状況によって加減するが、年間窒素の40%を目安とする。(芳養谷支店営農経済・三谷秀彦)

スモモ

◆病害虫防除

○灰星病

灰星病は、「花腐れ」から果実に伝染し天候が不良時に蔓延する恐れがある。菌の発生適温は20〜25℃程度とされており、降雨や湿度の上昇により熟果へも発病する。

○シンクイムシ

収穫時期が遅い品種ほど被害される傾向にある。防除は合成ピレスロイド系の薬剤で対策する場合が主流であったが、チョウ目へ特化した薬剤のエクシレルSE等も効果的である。

◆大石早生のお礼肥

樹勢回復や次年度への貯蔵養分の確保を目的に収穫後速やかに施肥する。(芳養谷支店営農経済・三谷秀彦)

水稲

◆水管理

○生育初期

田植え後から活着まではやや深水管理(4〜5^{センチ})、活着後は除草剤処理後3〜4日を除去、1〜2^{センチ}の浅水管理を行う。また、分けつを促進するため、4〜5日に1回程度水の入れ替えを行う。

○中干し

中干しは①根の健全化と下葉枯れ防止、②耐倒伏性向上、③過剰分けつ防止、④収穫の作業性向上などを目的に行う。

時期は分けつ数が目標穂数の80%程度(1株当たり16〜17本)確保できたら開始する。幼穂形成期(田植え約1カ月後、または出穂約1カ月前)に、田面に小さな亀裂が入る程度を目安に行う。

◆雑草・病害防除

○雑草防除

残り草が多い場合は、除草剤による雑草防除を行う。ただし、除草剤の使用には収穫前日数に注意する。

○いもち病

いもち病は日照不足や長雨、山間部や谷間で発生しやすい。また、補植の苗はいもち病の発生源となるため、早めに処分する。適期に薬剤防除を行う。(中央営農経済センター・榎本雄司)

野菜

◆エダマメ

○カメムシ防除

サヤが小さい頃に吸われると落下し、豆が膨らんでから吸われると変形や褐色に変色するため、適期を逃さないように防除する。防除薬剤は、スタークル顆粒水溶剤(2000倍・7日前まで・2回以内)、またはダントツ水溶剤(2000〜4000倍・前日まで・3回以内)等で防除する。

○収穫

開花から約30日後が収穫の目安となる。収穫が遅れるとサヤの色が薄まり、実が硬くなつて食味が低下する。面積が多い場合は、やや早めから収穫を始める。(中央営農経済センター・榎本雄司)

花き

◆施設花き

施設栽培では塩類濃度が高くなりやすい。収穫後に除塩を行うために塩類を吸収しやすい緑肥作物(ソルゴーなど)を播く。その後、生育した緑肥作物を圃場外へ持ち出して処分する。土壌の保水性や排水性の改善を促すために、バーク堆肥、プロ有機などの有機質資材を施用する。施用する前に土壌分析を行い、結果

に基づいた施用を行う。

○土壌消毒

連作障害の一つである土壌伝染性病害のリスクを軽減させられるほか、除草効果も見込まれる。

・農薬による消毒

薬剤にはクロールピクリンやバスアミド微粒剤がある。人体に刺激の強いガスが発生するため、ラベルをよく読み、注意事項に従って使用する。使用後も適切な処理を施す。民家等がある場合は周辺への配慮が必要である。(中央営農経済センター・田中大介)

花木

◆害虫防除

○輪紋葉枯病

葉に濃淡の同心円を描いた褐色斑点が形成される。多湿条件で発生しやすいので、6月は特に注意する。多発すると枝枯れを起こすため、初期防除に努める。薬剤は、トップジンM水和剤(1000倍・発病初期・5回以内)で防除する。また、薬剤散布だけではなく、伝染源となる罹病葉を圃場から持ち出すことも効果的である。(中央営農経済センター・田中大介)

※みかん、中晩柑、梅、スモモ、水稲の防除薬剤や施肥肥料は、旧JA紀南令和7年栽培暦をご確認ください。



新1年生の代表に梅干しを贈呈する櫻山さん(奥)と谷本さん(4月8日、新庄小学校で)

新入学児童の門出を梅で祝福

48校に青年部が梅干し贈呈

J Aわかやま青年部紀南地域本部は4月、小学校48校の新入学児童733人に梅干しをプレゼントしました。

家庭で梅干しを食べる機会が年々少なくなっていることを受けて平成22年から行っている取り組みで、児童らが基幹作物である梅に親しみ地域農業に関心を持つてもらおうきっかけ作りにつなげることを目的としています。

4月8日には、6年度の青年部長を務めた檜山京平さんと青年部新庄支部長の谷本和



優勝したキッズファイターズ男子

スポーツを通じた子どもたちの健全育成と、次世代のJ A活動への理解と参加を促進することが目的。主催は西牟婁地方小学生バレーボール連盟、J Aわかやま紀南地域本部が後援、J A共済も地域貢献活動の一環と



優勝したすさみ少女バレーボールクラブ

して協力しています。合併以前は「ちゃぐりんバレーボール大会」として開いていたもので、記念すべき第1回目となる今回は、管内の小學生8チーム・79人が参加しました。

J Aうめっぴ・みかっぴ杯を開催

優勝はキッズファイターズ男子

J Aわかやま紀南地域本部は4月13日、上富田町の朝来小学校で「第1回J Aうめっぴ・みかっぴ杯バレーボール大会」を開催しました。

試合は予選2試合の戦績により、上位(1部)、下位(2部)に分かれてのトーナメント方式。1部ではキッズファイターズ男子とすさみ少女バレーボールクラブが決勝戦に進出し、手に汗握る攻防戦を展開した結果、キッズファイターズ男子が優勝しました。

施設花き生産者を対象に

土壌還元消毒用資材の勉強会開く

J Aわかやま紀南地域本部の花き部会は4月3日、施設花きの生産安定と農家所得の向上を図るため、エタノール土壌還元消毒用資材「エコロジアル」の勉強会をとんだ支店で開催しました。講師は、日本アルコール産業株式会社の狩野雅彦さん。主成分がエタノールなので環境負荷が少なく、土壌中で微生物により



狩野さんの説明を聞く参加者

速やかに分解されるため、残留の心配がありません。農薬ではなく、エタノール含有量60%未満と危険物にも該当しません。管内で生産が盛んなトルコギキョウにおいても効果的な資材であるとし、生産者から質問が多数ありました。森本浩司部会長は「今使っている薬剤が有害のものなので興味をもった。高単価であるが、効果が期待できそうなので検討したい」と話しています。

オンラインショップ



たっぷりかつお入り
旨味かつお梅
(塩分8%)

ご注文はこちら



かつおの旨味たっぷりの甘酸っぱいかつお梅。お茶漬けにおすすめです。

ENJOY

セカンド
ライフ



田辺市新庄町

なかばやし ゆう き
中林 勇貴さん

病院勤務の看護師から
遺品整理等の専門店の代表に

3年前に起業し、墓地清掃代行や遺品整理、生前整理の専門店「クリーンクラブ」の代表を務めています。前職は地元の病院で看護師をしていましたが、ご遺族と接する中で遺品整理の難しさを知り、自分にも何か手助けできることはないだろうか考えるようになったのが開業に至ったきっかけです。

友人の支えも借りながらの家族経営で、詳細はSNSでもご確認いただけます。年々少しずつではありますが、遺品整理や生前整理に関する認知が進んできているように感じます。大切な思い出の整理にお困りの方がおられましたら、ぜひお気軽にご用命ください。

地域本部の

JA 職員です



芳養谷支店 金融窓口

よしおか あゆ み
吉岡 歩未さん

今ハマっているのは漫画やミステリー小説を読むこと。最近運動不足なので、軽くランニングやウォーキング等も始めたいです。



中央支店 渉外

さかもと たつ や
坂本 龍哉さん



初めての渉外業務で慣れない中、利用者さまにかけいただいた感謝の言葉が励みになりました。お役に立てるよう頑張ります。

ふれあい広場

うちのこ 紹介

コリンくん
(♂:オス)

田辺市鮎川

笠松 文代さん家族



一昨年の里親募集で、生後3カ月のコリンを引き取りました。人見知りで大人しい性格ですが、家族にはよく懐いています。おやつチュールが大好きで、たまに人気のないところへ散歩に行くのが楽しみです。

すくすく
Memory

4月からは
中学生となり
小学生だよー！



白浜町

やまだ いく こ
山田 育子さん

おう た
桜大くん (12歳) 結大くん (6歳)

桜大くんは、真面目でしっかり者のお兄ちゃん。好きな食べ物はたこ焼きで、友だちとドッジボールをするのが楽しいんだ。将来の夢は「小学校の先生」で、得意科目は算数。中学校でも勉強を頑張るよ。

結大くんは、活発でおしゃべりするのが大好き。人なつっこい性格で、将来は「アイスクリーム屋さん」なんだって。紀南のミカンや梅味のアイスも作って、たくさんお客さんが来てくれるといいな～。たまには兄弟げんかもするけど、とっても仲良しだよ。

ご家族から一言

2人とも仲良く元気に
“太”きな人間に育ってね。